

りっぼう  
律法

がいこくじん  
外国人

がいこくじん、あるいは、外人という言葉は、自分たちの仲間ではないという意味で使われます。今いる滞日外国人はどこの国の人がいるか、考えて、つぎの空白に書いてください。

りっぼう  
律法

イエスさまの時代には、律法を社会生活に適應させるために、律法学者たちによってさらに新しい解釈の規定が作られていました。人々は日常生活における行動の指導を律法学者から受けていましたし、律法学者たちは、律法の規定を守る事によってこの世に神の国をもたらし事ができると考えていました。

しかし、現実には貧しい人たちが、貧しいがゆえに律法の規定を守る事ができないでいました。この人たちは、律法を守らない罪人とみなされ、この人たちと

つきあう事が禁じられていました。また、ユダヤ人で

ない人たちも、外国人として共同体から排除されて

いきました。こうして、律法による差別に苦しむ多く

の人たちが、救いのない状態に置かれていました。

イエスさまは、律法による差別に苦しむ人たちの

状態を見て、こうした差別を作り出している律法

社会そのものを問題として取り上げました。つまり、

一般に罪人とみなされている人は、実際には罪人では

ないのです。社会の中で、不正義を行ない、富を

増やし、権力をふるっている人こそ問題なのです。富

んでいる人は、たとえ不正をしていても、ほどこしを

する事によって義人とみなされていたのです。

イエスさまが大切にしたのは一人ひとりの人間の

価値です。たとえ律法であつても、一人ひとりの人間

の価値を否定する事はできないのです。

